



学校だより

10月号

横浜市立大道小学校
平成29年9月29日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索

校長 富岡 正雄

「2045年問題」とは？

2045年には、**コンピューターの人工知能(AI)が人間の知能を超える**「技術的特異点(シンギュラリティ)」を迎えるのではないかと、という問題です。

現在、7歳の子どもたちが、35歳を迎える時のことです。

人工知能(AI)の現在

かつて、人工知能(AI)は、工場や倉庫・事務所などで、ある部分に特化するためのプログラミングをして、特定の作業を機械化し、「ロボット化」や「オートメーション化」へと発展させることで、各種製品の生産性を高めてきました。しかし、最近は、

- ・囲碁や将棋で、AIが人間に勝利する。
- ・タクシーにAIを搭載して、時刻と天候によりタクシー待ちの人数を瞬時に予測する。などの取組が報告されています。これは、【機械学習】と呼ばれるものです。

コンピューターに入れた大量のデータを**コンピューターが自分で分類・思考し、規則性や法則を抽出することで、コンピューターが自分で判断することができる**ようになった。つまり、**コンピューターが、自分で学習をするようになった**ということです。

2045年の社会の様子は想像が付きませんが、今の子どもたちは、将来に向けた準備として、どんな学習をして、どんな力を身に付けていけばいいのでしょうか？

大道小学校は、各種教育活動の中で「育てていく力」について次のように考えています。

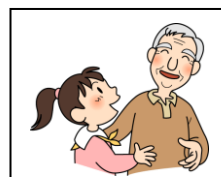
学校教育の中で取り組んでいること

予測困難な社会の変化に遭遇しても、主体的に関わり、自分の人生や社会をより良いものにしていくことができるように、子どもたちには、次の力が身に付くことを目標にしながら指導をしています。各教科学習や行事などの取組の中で、繰り返し行っています。

- ① 課題にぶつかった時の「課題解決力」「コミュニケーション力」
- ② 自分の考えをしっかりと持ち、伝える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 地域や社会に関心を持ち、人と関わる「温かさを含めた人間力」
- ④ 学校での学びだけでなく、生涯学習につながる「学び続ける力」

*①と②は、単に、「知識・技能」を身に付けるだけでなく、【どのように学ぶか】【どのように判断し、伝えるか】という学習の過程も重視しています。

*③と④は、多くの人と関わる中で、【自らの生活や行動について考えを深める】【相手の考えや思いを受けとめ、理解する】ことを重視し、【学ぶ意欲は生涯にわたる】と捉え、「ひとや地域と関わる学習」を大切にしています。



今月の学校だよりでは、「人工知能」について書きましたが、AIの進化に対して、私たちは、どんな準備をしていくべきなのか？ A4で1ページではなかなかきちんとお伝えすることが難しかったです。分かりにくい点は、ご容赦ください。

いろいろな面から【人間性を磨く】ということでしょうか。

20年、30年後の子どもたちの将来の姿を考えるきっかけの一つになれば幸いです。

<参考資料> ・人工知能は人間を超えるか 松尾豊著 角川選書

・NHKテレビ 「NHK特集」 平成29年6月28日、他